



JICAME 通信

JICA カメルーン事務所
2012年8月 第2号

★★ 8月の予定 ★★

【事業・事務所の動き】

- 8月15日 事務所休日
- 8月23日 「日本 - カメルーン経済協力レビュー一會合」
- 8月27日 「カメルーン熱帯雨林とその周辺地域における持続的生業戦略の確立と自然資源管理」合同調整委員会

【人の動き】

- 8月8日 - 9月8日
葛西専門家 休暇一時帰国
- 8月15日 - 9月15日
吉田専門家 休暇一時帰国
- 8月18日 - 9月19日
淵上調整員 休暇一時帰国

【目次】

1. 平成24年度 JICA 在外事務所長会議報告
2. ネリカ米試食会の実施
3. 山本 SV 活動内容紹介
4. カメルーンの凄い人

平成24年度 JICA 在外事務所長会議に出席して

JICA カメルーン事務所長 村上 博信

7月11日から13日に東京で全世界の JICA 在外事務所長（65人）を集めた在外事務所長会議が開催されました。



初日には4月に就任した田中新理事長から、世界が多極化している現代における JICA の役割に言及があり、右状況に対応できるようプロアクティブに変革していく必要性が伝えられました。また、JICA が各国で進めている国別支援戦略の策定、開発課題への対応、戦略的な ODA の活用について、各国での JICA の取り組みについて議論を行いました。

会議2日目には地域別にセッションが組まれ、アフリカ地域セッションにおいては、アフリカにおける今後の事業規模の見通し、在外体制、来年6月に横浜で開催される予定の TICADV（第5回アフリカ開発会議）のアクションプラン等について検討を行いました。最終日は、全体総括を行い、関係部署との個別協議を行いました。

これらの期間中においては、別途、国会議員やメディアに向けた対外発信や外務省との協議も行いました

全世界の事務所長が参加した所長会議は3年ぶりです。私もカメルーンの JICA 代表として初めて会議に参加しましたが、あらためて東日本大震災後の厳しい日本の現状を、うまく新理事長の唱える「元気の出る援助」で変えていく必要があることを再認識しました。



今こそ日本の中に籠るのではなく、カメルーンや世界で活躍されている皆さんのような元気な活動を日本の皆さんにも知ってもらい、世界に目を向けてもらいたいと思います。そのためにも、JICA カメルーンもプロアクティブに行動していきたいと思います。

(写真は右 JICA ホームページより使用 http://www.jica.go.jp/press/2012/20120726_01.html)

プロジェクトの現場から 熱帯雨林地域陸稲振興プロジェクト(PRODERiP) ネリカ米試食会

JICA カメルーン事務所



2011年7月に開始されたカメルーン初の技術協力プロジェクトである PRODERiP。協力の歴史が長く脈々と続いてきた多くの国の協力とは異なり、全てが0からのスタートであったが、プロジェクト専門家の尽力により陸稲の種子生産、種子配布、栽培、普及と収穫後処理の一連の活動が本格化している。

2008年5月、JICAは「アフリカ緑の革命のための同盟 (AGRA)」と共同で、TICADIVの場において「アフリカ稲作振興のための共同体 (CARD)」を発表した。CARDは、サブサハラ・アフリカのコメ生産を向こう10年間で倍増(1400万トンから2800万トン)とすることを目標としている。第1回CARD本会合において、カメルーンは第1グループ支援対象国に選定され、稲作振興戦略文書(NRDS)が策定された。同文書では、2008年のカメルーン国内コメ生産量10万トンから、2018年までに約9.7倍のコメ生産を達成することを目標としている。

JICAは、2008年以降上述稲作振興戦略文書に資する協力を行うべくカメルーン政府と協議を重ね、カメルーンにおける初代技術協力プロジェクトとして2011年に開始されたのが PRODERiP である。

PRODERiP (以下「プロジェクト」とする)は「プロジェクト対象の3州(中央、東部と南部州)のパイロット地域において、陸稲を栽培する農家が増加する」ことをプロジェクト目標としている。しかしながら、カメルーンにおいて陸稲(プロジェクトでは陸稲の一種であるネリカ米を栽培)は栽培経験が少なく、またその味を知る人も少ないのが現状である。



試食会で提供されたネリカ米他カメルーンで販売されているコメに係る状況下、プロジェクト専門家と農業・農村開発省のC/Pは、ネリカ米をより多くの人に知ってもらうため、様々な関係者を巻き込んだネリカ米試食会を企画し、2012年7月25日にカメルーン農業・農村開発省で実施した。



コメを吟味する Essimi 農業・農村開発省大臣と新井特命全權大使

この試食会では、コメを紹介する方法として、参加者には試食米の種類を伏せ、その上で、ネリカ米を含めた5種類の中からどのコメが美味しいか投票してもらう形式で進められました。



食べ比べたコメに投票する参加者



プロジェクトで栽培したネリカ米で作成したコメ菓子

また、白米だけではなく、お米で作ったお菓子も提供される等、高収量、病虫害に強いといった栽培面の特徴だけでなく、加工品となり得るネリカ米の魅力を様々な形で示しました。

本試食会には約300人が参加したほか、現地テレビ、新聞などといったマスコミにも取り上げられました。ネリカ米の良さを多くの人に知ってもらい、栽培に関心を持つ農家が増えるよう、プロジェクトでは更なる試食会の案を練っているそうです。

なお、気になる投票の結果は、次号をお楽しみに。



プロジェクトの説明を行うカウンターパート いつもに増して真剣です

MON ACTIVITÉ AU CAMEROUN

シニア海外ボランティア 平成 22 年度 4 次隊 初等教育 山本 文子

全ての隊員が首都ヤウンデ以外で活動をするカメルーンにおいて、山本 SV は、ヤウンデで活動中の唯一のボランティアです。ヤウンデは、フランス資本の大きなスーパーマーケットやビール工場がある等、経済的な発展を間近に感じることができる反面、貧富の差の拡大から犯罪被害も多くなり光と闇が交じり合う都市です。そんなヤウンデで未来を担う子どもたちのために活躍されている山本 SV からご寄稿いただきました。

昨年 3 月末にカメルーンに着任してからの私の活動先は、ヤウンデ 2 区と 5 区の 11 の小学校と教員養成校の合計 12 校だが、実際に現場で授業に関わる活動を行ったのは昨年 9 月の新年度からの 9 ヶ月弱である。

この間、自分がやってきたことは、大きく分けると 4 つにわけられる。

1. 現地教員と協同での情操教育関連の授業の実践。
2. 8 回の「情操教育」についてのセミナーと、体育を中心とした教材作りや授業のワークショップ。

これは、まずヤウンデの学校群毎で 4 回。その後の、ンディキニミキ・バフィヤ・マケネネ・ニトウクという中央州 4 地区で、4 回。総勢 800 人程の参加を得た。



3. そして、5 月 30 日に行った、授業の延長と結果発表としての、小学校 11 校合同での、ヤウンデ史上初の運動会。



これは、ヤウンデ最後のセミナーと同じように、テレビでも紹介された。

4. 長期休暇中の今は、先生を対象に、授業で使えるピアノ教室をやっていて、3 曲ほどを仕上げた。

また 9 月には、ンフー、ンバルマヨ、ングレマコンとヤウンデで活動する 4 人のボランティア共催の、情操教育と音楽・図工・体育についてのセミナーとワークショップを行う予定だ。



これらの自分の活動で私が心掛けていることは、次の 4 つだ。

1. 一人一人の違いを重視した情操教育は、児童のより良い人生とカメルーンの発展に欠かせず、カメルーンの教育指導要領にも義務としてうたわれているというスタンス。
2. 授業の評価基準を簡単明瞭に示し、相手が毎回自ら改善できるようにすること。
3. お偉方を巻き込み、カメルーン人の情操教育での活躍を何かにつけ示し、やる気を出させること。
4. JICA の全ボランティアと連絡を取り合い、情報を交換しながら互いに助け合うこと。



そして、何よりも一番大事なことは

正直なことを言うと、私のカメルーンでの全活動は、全ての隊員に毎回教えられ、助けてもらえたからこそ成り立ってきたものです。隊員に感謝！



写真左上から右下へ

- ① エソスの先生とのハサミの授業
- ② 組体操を披露する子どもたち
- ③ 真剣な表情で綱引きに取り組む子どもたち
- ④ 教師用ピアノ教室の様子
- ⑤ エソスの図工授業
- ⑥ お偉方から授かった表彰状に満足
- ⑦ 運動会で「君が代」斉唱
(左から、山本 SV、近藤隊員、森本隊員、谷本隊員、加藤隊員、伊藤隊員) この他に、西出隊員と落合隊員も会場で活躍。予定では、岩永・布川、両隊員も応援にかけつけてくれた。
- ⑧ 運動会で喜ぶ子どもたち



第一回 カメルーンの凄い人たち！！ スメニェさん

今回は、淵上企画調査員から紹介いただいた壮年彫刻家です。

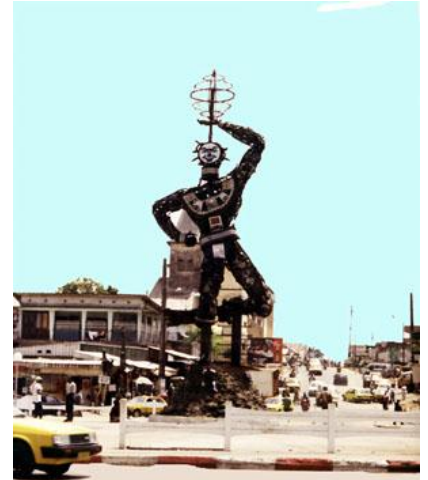


皆さんはドゥアラにある「新しい自由」と名付けられた全長 12m の像をご存知ですか？

この廃材でできた巨大な像を作ったのは、スメニェというカメルーンの壮年彫刻家です。彼はモコロの小さな薄暗いアトリエで制作しています。付近で拾った廃材を使って子供がブロック遊びに没頭するように、嬉々として制作しています。彼の手にかけると壊れたて道端に捨てられた物たちが再び命を吹き込まれて生き返ります。彼の大きな分厚い手は驚くほどに器用で、銅線でオブジェたちを手際よく縫い合わせていきます。小さなオブジェの塊が、日を追うごとに大きく成長していく様子を見ると、芸術家は「創造の神」なのだなと納得してしまいます。

現在のテーマは「9人のノタブル」(9 notables)で、この作品は海外に流出することを避け、レンタルのみで公開するという事です。日本、フランス、

オランダ、ドイツなどの展覧会にも招待出品したことがあるこのアーティストの作品、国内で展覧会が開催される際には是非ともご覧ください。



事務局より：ヤウンデは涼しいですが、他地域の方々はいかがでしょうか。「アフリカのミニチュア」と呼ばれるカメルーン。色々な気候かと思いますが皆様お体にご自愛ください。

JICAME 通信に関するお問い合わせは右までお願いします。：ca_oso_rep@jica.go.jp

カメルーン事務所ホームページ：<http://www.jica.go.jp/cameroon/index.html>